

## 微小粒子状物質健康影響評価検討会について

水・大気環境局

### 【概要】

- 浮遊粒子状物質の中でも粒径の小さい微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）について、国内外の科学的知見を踏まえ、微小粒子状物質の呼吸器系や循環器系等健康影響に関する評価について専門的な検討を進めることを目的として開催。
- 委員は曝露、毒性学及び疫学に関する学識経験者 18 名により構成されている（別紙）。

### 【検討事項】

国内外の微小粒子状物質に関する科学的知見を踏まえ、以下の事項を検討する。

- 粒子状物質に関する特性
- 微小粒子状物質の曝露評価
- 微小粒子状物質の生体内沈着・体内動態
- 微小粒子状物質の毒性学研究に関する健康影響
- 微小粒子状物質の疫学研究に関する健康影響
- 微小粒子状物質に関する健康影響評価

### 【審議経過】

これまで平成 19 年 5 月の第 1 回会議開催以降、計 7 回にわたって、精力的に審議・検討いただいているところ。

### 【今後の取組み】

引き続き微小粒子状物質健康影響評価検討会において御審議いただき、年度内を目途に、微小粒子状物質の健康影響評価に関する報告書を取りまとめる予定。

### 【その他の取組み】

- 微小粒子状物質の測定方法の確立及び大気環境モニタリングの試験運用
- 各種発生源からのインベントリ整備及びシミュレーションによる微小粒子状物質濃度の測定
- 自動車から排出される粒子状物質の成分や粒径の分布について調査

## 微小粒子状物質健康影響評価検討会 委員名簿

	氏名		所属
委員	あだち 安達	しゅういち 修一	相模女子大学学芸学部食物学科公衆衛生学 教授
委員	うえしま 上島	ひろつぐ 弘嗣	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学 教授
委員	うちやま 内山	いわお 巖雄	京都大学大学院工学研究科 教授
委員	かがわ 香川	じゅん 順	東京女子医科大学 名誉教授
委員	かわもと 川本	としひろ 俊弘	産業医科大学医学部衛生学講座 教授
委員	くどう 工藤	しょうじ 翔二	日本医科大学呼吸器・感染・腫瘍内科 主任教授
委員	こばやし 小林	たかひろ 隆弘	東京工業大学統合研究院ソリューション研究機構 特任教授
委員	さかもと 坂本	かずひこ 和彦	埼玉大学大学院理工学研究科 教授
委員	さとう 佐藤	ひろし 洋	東北大学大学院医学系研究科 教授
委員	しま 島	まさゆき 正之	兵庫医科大学公衆衛生学 教授
委員	そぶえ 祖父江	ともたか 友孝	国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部 部長
委員	たかの 高野	ひろひさ 裕久	独立行政法人国立環境研究所環境健康研究領域 領域長
委員	とみなが 富永	すけたみ 祐民	愛知県がんセンター名誉総長
委員	にった 新田	ひろし 裕史	独立行政法人国立環境研究所環境疫学研究室 室長
委員	みぞはた 溝畑	あきら 朗	大阪府立大学産学官連携機構先端科学イノベーションセン ター センター長
委員	もりた 森田	まさとし 昌敏	愛媛大学農学部生物資源学科環境計測学 教授
委員	よこやま 横山	えいじ 榮二	元 国立公衆衛生院 院長
委員	わかまつ 若松	しんじ 伸司	愛媛大学農学部生物資源学科大気環境科学 教授

## PM2.5とは

- 従来からは大気中に漂う粒径  $10\mu\text{m}$  ( $1\mu\text{m}=0.001\text{mm}$ ) 以下の粒子を浮遊粒子状物質と定義して環境基準を定め対策を進めてきているが、そのなかで粒径  $2.5\mu\text{m}$  以下の小さなものを微小粒子状物質と呼んでいる。
- 微小粒子状物質は粒径がより小さくなることから、肺の奥深くまで入りやすい。

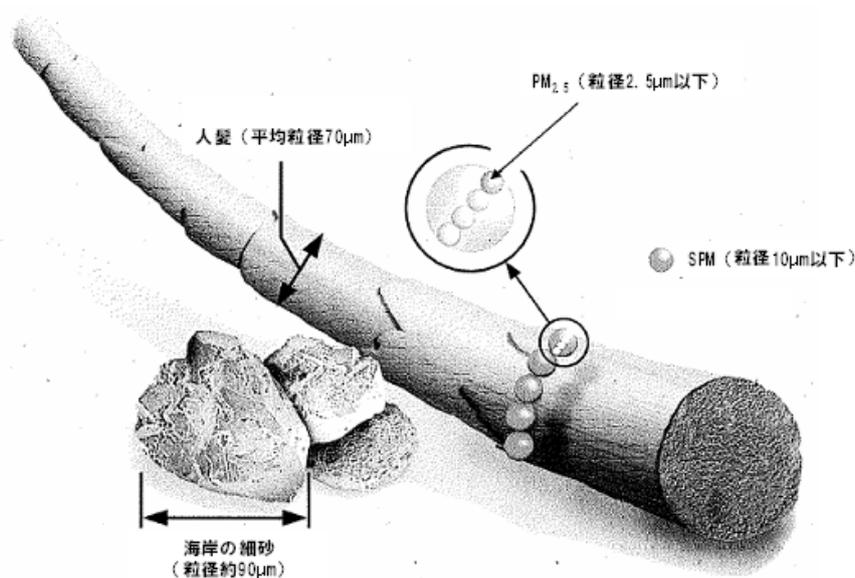


図 PMの大きさ (人髪や海岸細砂との比較) (概念図)

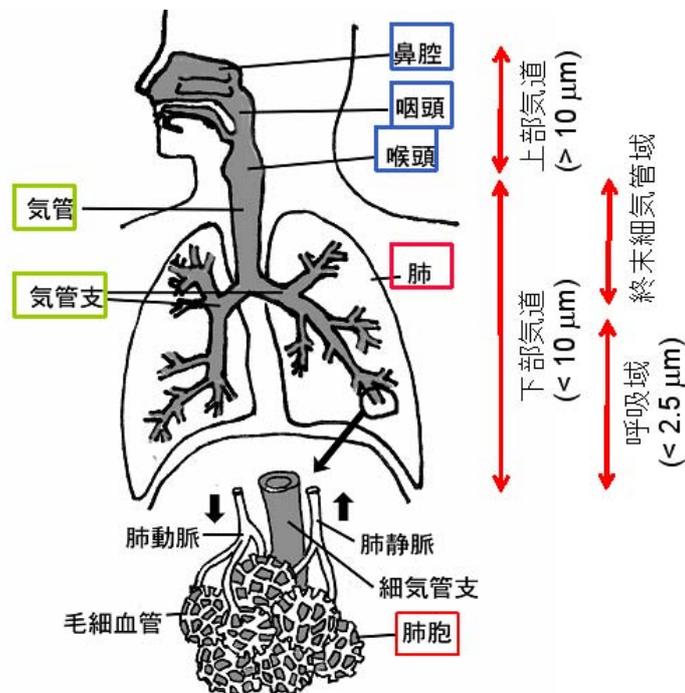


図 人の呼吸器と粒子の沈着領域 (概念図)